独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

対象：通常の学級の担任

※最新版は、
https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series
から直接ダウンロードできます。

特別支援教育リーフ Vol.10

人前で話すことが苦手な子供の理解と支援

独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所

インターネットによる講義配信もあります。詳しくは「NISE 学びラボ」へ

「人前で話すことが苦手な子供の理解と支援」

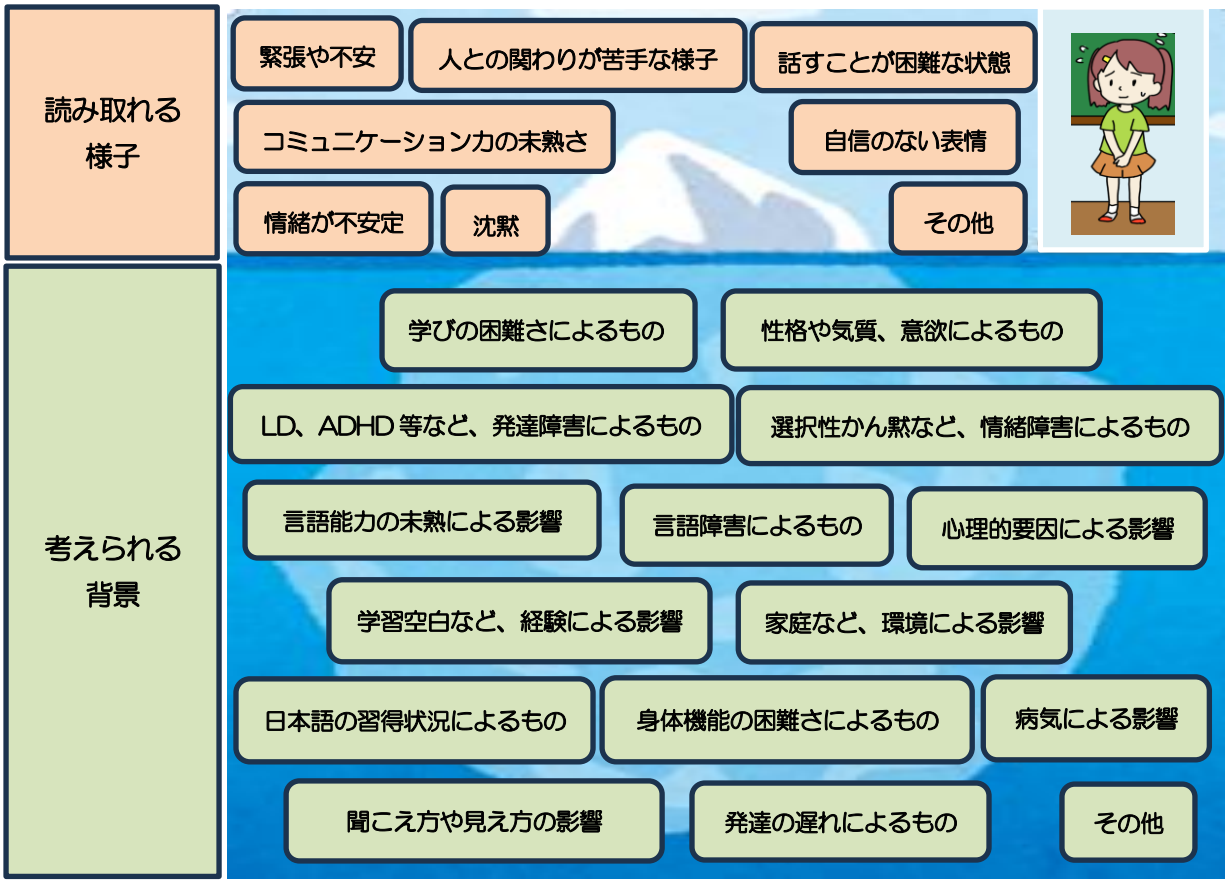
人前で話すことが苦手な子供の背景と困難さを一緒に理解し、一人一人の子供に寄り添った具体的な支援や配慮を考えていきましょう。人前で話すことが苦手な子供が状況に合わせて、多様な表現方法から「話す」や「伝える」の選択をし、成功体験を積み重ねることで、達成感や不安の軽減につながっていきます。また、子供が無理に話さなくてもいいと安心感を持てる雰囲気をつくることも大切となります。

◆人前で話すことが苦手な子供がどんなことに困難さを感じているかを考え、安心してコミュニケーションが取れる手立てを工夫しましょう。

◆多様な表現方法から、これならできるという表現方法を選択し、自分の考えを表すことに対する自信がもてるようにしましょう。

人前で話すことが苦手なのは、どうしてだろう？

通常の学級における「人前で話すことが苦手な子供」については、見た目の子供の様子からだけでは読み取りきれない多様な背景があることを踏まえて対応することが必要となります。下の図に示したように見えている部分は氷山の一角です。その下には様々な背景が考えられます。こうした多様な背景を把握しながら、一人一人の子供に寄り添った関わりをしていくことが大切です。



読み取れる様子や考えられる背景には、「その他」に当てはまることも考えられます。教員間で話し合いながら、より具体的な子供の姿を考えてみましょう！

どんなことに困難さを感じているのだろう？

人前で話すことの困難さは、何人ぐらいの人の前か、話すのは誰か、どんな場所か、どんな場面かなどの環境や状況により苦手の度合いが変わります。子供へ話すことや動作を強制したり、話さないことを責めたりするなどは望ましくない対応となります。良い聞き手の存在や環境の調整など、人前で話すことが苦手な子供が円滑に話すことができるよう、緊張や不安を感じない環境や受容的な雰囲気づくりが大切となります。例えば、話すことに限定せずに、動作や表現、筆談、ICT 機器などを活用し、その子にとっての「話す」や「伝える」を聞き手が受け入れることで、多様な子供達が安心感を持つことにつながります。

また、話さなくても大丈夫、だまっていてもいいと伝えることも大切です。

＜障害等における人前で話すことに関連した困難さの例＞
【言葉発達の遅れ】→語彙が少ないため、自分の考えや気持ちを的確に言葉にできない。
【吃音】→人の前でどもりたくない。どう思われるか不安である。
【構音障害】→発音の誤りをどう思われるか、指摘されないか不安である。
【選択性かん黙】→家庭などでは会話ができるものの、学校の友達とは話すことができない。
【LD】→話の内容を記憶して前後関係を比較したり、類推したりすることが困難である。
【自閉症】→言葉でのコミュニケーションが困難である。　などなど

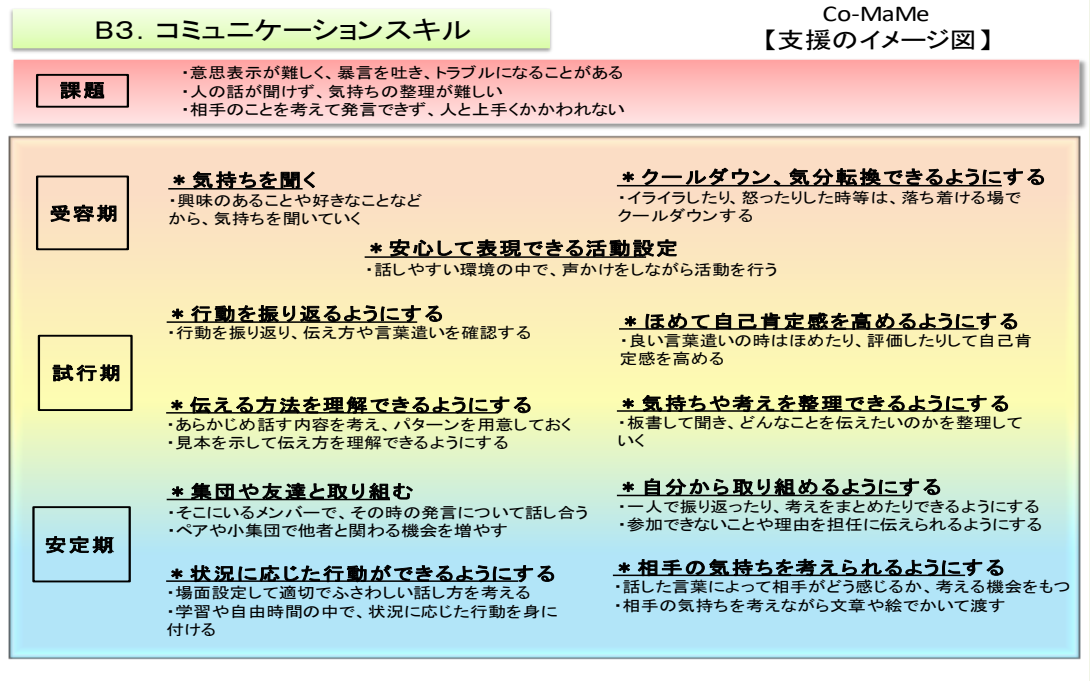
様々なコミュニケーション手段を選べるようにしよう！

声を出して発表することに困難がある場合や人前で話すことへの不安から、自分の考えなどを発表することが難しい場合、安心して発表できる手立てを準備することが大切です。発表する内容を紙やホワイトボードなどに書き、それを見ながら発表できるようにすること、ICT 機器を活用して発表できるようにすることなど、多様な表現方法から選択できる工夫をし、自分の考えを表すことに対して自信がもてるような配慮をしましょう。例えば、話すことの他に、身振り、サイン、手話、指文字、文字、写真、絵カード、メモ、文字盤、コミュニケーションボード、ボタンを押すと音声が出る機器、タブレット端末、コンピュータなど、様々なコミュニケーション手段から、子供が状況に合わせて表現方法を選択できるような工夫もその一つです。人前で話すという経験を積み、成功体験を重ねることで、達成感や不安の軽減につながり、自分の考えを表すことへの自信が育っていきます。

☆さらなる理解のために☆

コミュニケーションに関する支援例

行動面や適応面に困難さを抱える子供の実態把握や支援方法について、具体的な支援の方向性を考えるツールの一つとして、Co-MaMe（連続性のある多相的多階層支援）があります。子供の教育的ニーズをアセスメントするシート、教育的ニーズに対応した支援のイメージ図を活用し、子供の教育的ニーズと支援方法を「見える化」し、教員間の共通理解を図ることができます。



＜参考情報＞

〇千葉県教育委員会　学びの困難さに対する指導の手立て集

各教科等別の困難さに応じた手立てを紹介しています。

〇埼玉県立総合教育センター　彩の国みんなのみかたプログラム

学習面や行動面の特別なニーズに応じた支援を紹介しています。

〇独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所　病弱・身体虚弱教育における関連情報

Co-MaMe のアセスメントシートなどがダウンロードできます。

〇発達障害教育推進センター

発達障害教育に関する様々な情報を紹介しています。

独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
National Institute of Special Needs Education
NISE

★ＮＩＳＥのホームページ
https://www.nise.go.jp/nc/

編集　情報・支援部
ＴＥＬ　046-839-6803（代表）

初版発行　令和５年１２月